

総合振興計画・定住自立圏共生ビジョン・総合戦略
審議会委員からのご意見及び浜田市の考え方

No	ご意見の概要	浜田市の考え方
総合振興計画		
【産業経済部門】		
1	<p>浜田港と釜山港を結ぶ航路がありますが、浜田の企業は韓国と実際に取引を行っているのかを尋ねたいです。また、どのようなものを取引しているのかが知りたいです。</p> <p>浜田は韓国に近いということが強みだと思うので、企業誘致を行う場合は、韓国と取引している企業が良いのではないかと思います。</p>	<p>(産業経済部)</p> <p>浜田の企業には、浜田港を利用して韓国と輸出は魚介類、輸入はプラチック製品や紙類及び同製品、魚介類などの取引をされている企業もあります。</p> <p>国際定期コンテナ航路がある浜田港は、企業誘致で大きな強みでありますので、韓国をはじめ貿易をしている企業について、関係機関と連携して企業誘致に努めてまいります。</p>
2	<p>産業経済部門においては、コロナ禍に影響しているところが大きいと思います。その点について、後期計画では新たな施策（救済策）は検討されていますか？特に、宿泊、観光分野には早急な支援が必要ではないかと考えます。</p>	<p>(産業経済部)</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大によりダメージを受けた観光関連事業者等への支援について、その都度全体的な状況判断が必要になることから後期計画には記載しておりません。これまでも様々な支援を行ってまいりましたが、今後の感染拡大状況や、国・県の支援策の内容、また、市内観光事業者の状況等を総合的に判断し、必要な支援を検討してまいります。</p>
3	<p>新規学卒地元就職者数の増加は、特に大学生については、そもそも市内企業が大卒者を雇用したいのか（大卒者に見合う仕事があるのか、雇用できるだけの給与水準、福利厚生を用意できるのか）も含めて目標を設定いただきたい。魅力発信で就職もよいが、その後長く勤められることができる安定、保障がなければ結局は離職、市外への流出となってしまう。</p>	<p>(産業経済部)</p> <p>個別の企業ニーズを都度把握し、市として計画目標を設定することは困難です。</p> <p>しかしながら、若い世代の仕事への定着、定住は大きな課題であると認識しておりますので、引き続き、情報収集・発信に努めてまいります。</p>
【健康福祉部門】		
4	<p>健康づくりの推進において、健康寿命延伸の為に取り組む必要がある。特に働き世代では、知識はあっても実践力が薄いことから将来における病気のリスクが高まる。コロナ禍で評価ができないとのことではあるが、浜田市の目標をしっかりと掲げてほしい。</p>	<p>(健康福祉部)</p> <p>健康寿命は徐々に延伸はしていますが、島根県内で比較すると低い状況は続いています。まずは県平均を目標に掲げています。</p> <p>健康長寿延伸のためには、関節症対策・認知症対策・脳卒中对策が必要と分析しており、高齢者の介護予防やフレイル(虚弱)予防だけでなく、働き盛り世代からの生活習慣改善の取り組みが必要と考えています。「はまだ健康チャレンジ事業」や、市内の事業所を対象にした「はまだ健活事業所応援プロジェクト」、「しまね健康寿命延</p>

		伸プロジェクト事業」のモデル地区活動など、『はまだ健康プロジェクト 10 か年事業』として、目標に向かって、市民や関係機関と連携して計画的に取り組めます。
5	がん対策について、タバコの禁煙者を増やすことを掲げてほしい。タバコはがんのリスクが大きい。がん検診の受診率を上げる更なる取り組みが必要。	<p>(健康福祉部)</p> <p>禁煙対策については、健康増進計画にも掲げて取り組みを進めており、禁煙相談日の開設や禁煙の普及啓発に取り組んでいます。タバコの禁煙者を増やす取り組みについて継続してまいります。</p> <p>がん検診の受診率向上を目指して受診料の無料化や年齢を区切って案内通知や未受診者への案内、休日検診などに取り組んでいます。まだまだ周知が不十分ですので更に取り組みを進めてまいります。</p>
6	浜田医療センターだけでなく、近隣の医療機関でも医師確保に苦慮しているところではあるが、現在の医師確保施策の継続、更なる施策の検討をお願いします。障がい者に対する施策の一部を除いて数的な整備は整ってきていると思います。今後は、支援について、内容を確認、検証することで充実に努めることが必要と考えます。	<p>(健康福祉部)</p> <p>新たな医師確保については、島根県、島根大学、しまね地域医療支援センター等の関係機関の事業連携の他、今年度から島根大学医学部附属病院内に総合診療医センターが新設され、浜田市国保診療所連合体医師1名を週1回派遣し事業実施に協力しています。</p> <p>総合診療医センターの役割としては、医療の専門分化・高度化が進む中臓器別・疾患別専門医の育成が進む一方で、高齢化も同時に進行し、患者個人の複数疾患や生活上の課題を総合的に診ることができ、地域包括ケアにおいても中心的な役割を担える医師の確保が必要であるため、幅広い領域の疾患等を総合的に診ることのできる総合診療医の養成や育成・確保するための拠点であります。</p> <p>浜田市においては平成21年度から取り組んでいる、浜田市中心間地域包括ケア研修センターでの総合診療医の育成や確保対策は、市民の暮らし健康を守る市行政の重要な課題であると認識し、先行的な取組の一つであります。</p>
7	包括センター業務が委託となり、「行政と委託先の継続的な連携、協力」とあるが、どのようなことができ必要と思われるのか。	<p>(健康福祉部)</p> <p>地域包括支援センター業務を外部委託する場合、委託前と委託後におけるサービス水準の維持が重要であることから、現在市と委託予定法人が月2回程度の頻度で合同研修会を開催することにより、スムーズかつサービス水準を維持した業務委託に向けた取り組みを行っています。</p> <p>また、地域包括支援センター業務委託後は高齢者からの総合相談業務等は受託事業所が行うこととなりますが、必要に応じて市の担当課が連携して対応することが</p>

		<p>できることから、今まで以上に迅速かつ手厚い支援を行うことも可能と思われます。</p>
<p>【教育文化部門】</p>		
<p>8</p>	<p>「自分には良いところがあると思っている子どもの割合」小6児童が過去5年間連続でCになっている。従来のやり方ではなく新たな取り組みが必要ではないだろうか。自己肯定感を高めるには放課後の自由な余暇の保障、異年齢交流が重要と考える。コロナ禍で習い事など何かに属していることで安心する保護者が更に増え、子どもは放課後、休日の自由時間まで奪われているように感じている。子どもの声に耳を傾け寄り添える大人を増やすことも必要だが、保護者が子育ての不安を話せる居場所作りなど、子どもをとりまく背景にも注視した策が欲しい。</p>	<p>(教育部)</p> <p>新たな取組として、昨年度より話し合いを通じて自己の取組のよさについて定期的に自己評価し、学期末や学年末にキャリア・パスポート(子どもたちが、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる活動について記入し記録を保存する評価方法)としてまとめ、相互評価により自己肯定感を高める取組を全小中学校で行っています。今後もこの取組を強化してまいります。</p> <p>地域ぐるみで子どもを育み、子どもも大人も、そして地域も高まりあうことを目的に、はまだっ子共育推進事業を実施しています。</p> <p>子どもに対しては、まちづくりセンターを中心に放課後子ども教室等を実施することによって、安心・安全な居場所づくりや異年齢交流等の推進を図ってまいります。</p> <p>また、保護者に対しては、浜田親子共育応援プログラム(通称HOOP!)をとおして、家庭教育に関する講座の実施等を行い、子どもに関する学習機会を提供するとともに、保護者同士の交流を図ってまいります。</p>
<p>9</p>	<p>教育文化部門の取組みですが、進捗状況の目安として「～と思う子どもの割合の増加」という統計結果で判断材料とするのは、とてもあいまいな感じがする。読書の推進についても、図書館の利用者の増減だけで判断できないと思う。</p> <p>学校での目標は、学習の定着、学力の向上を主として、学校以外の地域で行える学習支援の取組みがもっとあれば良いと考えます。(ボランティアに頼らないようなオンライン学習など)</p>	<p>(教育部)</p> <p>進捗状況の目安について、他との比較が容易なように、「全国学力・学習状況調査」の項目に合わせ、子どもの「意識調査」の結果をもって判断材料としてきました。今後は、行動の尺度となる目標設定も検討していきたいと考えます。</p> <p>読書の推進のすべてが、図書館利用者の増減だけで判断できるとは考えませんが、図書館の利用者を増やす取り組みは、読書推進の重要な項目であると考えます。今後も各種イベントの開催などを通じ、読書活動全般の推進に取り組んでまいります。</p> <p>学校以外の学習支援の場としましては、まちづくりセンター等を拠点として、放課後子ども教室や、地域学習支援事業を行っています。</p> <p>コロナ禍においても効果的な学習支援ができるよう、各教室で計画をたてて実施しております。委員ご指摘のオンライン学習等も視野に入れ、今後の取組を検討してまいります。</p>

10	<p>人権教育は非常に大切だと考えます。「自分を大事に思うこと、人を大切に思うこと」を子どもたちに伝え、考える場が必要になると思います。教育現場だけでなく、社会教育の立場からも市民の理解と協力が得られる施策が求められると考えます。さらに学校教育の場における給食の意義、加えて社会的ニーズである子どもの貧困などについても考える必要があると思います。行政の積極的関与による福祉分野との連携強化をお願いいたします。</p>	<p>(教育部)</p> <p>人権教育には、学校教育としての人権教育とは別に、社会教育としての人権教育も必要と考えます。まちづくりセンターや事業所等で行う小規模な人権学習のほか、人権講演会の開催などあらゆる機会を通じて市民の人権意識の高揚を図り、差別や偏見をなくしていくための施策の推進に努めます。</p> <p>経済的に困窮している児童生徒に対して給食費や学業品費を支援する就学援助を行っています。家庭環境に関係が深いものでありますので、福祉分野と連携し取り組んでまいります。</p>
【生活基盤部門】		
11	<p>汚水処理人口普及率の増加は、現状の目標値にしても、全国的に見てレベルが低すぎると思われる。特に、狭隘な市内中心部では合併処理槽を敷地内に埋めるのにも難儀をすると聞いたこともあり、現状の下水道整備計画も少なくとも目標年度の供用開始が遅滞なく実施できるよう対応をいただきたい。</p>	<p>(上下水道部)</p> <p>浜田市の汚水処理人口普及率は全国や島根県の普及率と比べ非常に低く、普及率向上のためには下水道や合併浄化槽の整備が必要です。</p> <p>下水道課においては、現在、市役所、浜田駅前周辺を優先整備区域とし令和2年度より下水道整備に着手し、令和8年度より順次供用開始を目指し取り組んでおります。</p> <p>供用開始時期が遅れることのないよう整備を進めてまいります。</p>
12	<p>人口問題を考える時に、よく2025年問題・2030年問題といった言葉が使われます。団塊世代が後期高齢者になられた際の問題点のキーワードとなっていますが、空き家対策についてはあまり語られません。</p> <p>団塊世代の方たちは大抵の場合、持ち家に住んでおられるので後には大量の住宅が残って老朽化が進み景観や防犯上の問題が生じてきますので、これからの町づくり計画に空き家対策も考慮していく必要があると思います。</p>	<p>(都市建設部)</p> <p>当市でも危険な空き家の数は増加しており、相談件数も多いことから、市として、危険な空き家に関して対応していかなければならない状況です。</p> <p>したがいまして、浜田市総合振興計画に危険な空き家に関する対策を記載し、実施していきます。</p> <p>(地域政策部)</p> <p>空き家の状態を見極め、利用が可能な空き家については、空き家バンクへの登録を促す取組を継続することが必要であると考えております。</p> <p>現在、中山間地域には空き家の相談チラシを広報はまだと一緒に配布しております。また、固定資産の所有者が亡くなった際には、資産税課で相続人の手続きに来られた方へ、空き家バンク登録チラシを配布し、制度案内を行っています。</p> <p>今後も、引き続きこの取組を行い、空き家の利活用の促進に努めてまいります。</p>

【防災・防犯・消防部門】		
13	<p>地域の防災について様々な情報がなされていますが、実際の災害時における支援体制、避難所（特に福祉避難所）の整備等が急務であると考えます。また、地域の防災力は人口の減少、高齢化により決して強力なものではないと考えます。このような状況に考慮した防災体制、訓練等が必要ではないかと思えます。高齢者、障がい者が一人も取り残されない社会、安心、安全な地域となるために具体的な行動が必要な段階になってきたと思えます。</p>	<p>（総務部）</p> <p>ご意見のとおりと考えています。福祉避難所の整備については、関係各課と協力の上、現在、避難所の設置や人員の配置、資機材の整備について検討を開始しているところです。</p> <p>市民一人ひとりが安心して暮らせるよう、地域防災力の向上や防災体制の整備、適切な防災訓練の実施など、安心、安全な、災害に強いまちづくりの実現に向けて、取り組んでまいります。</p>
14	<p>自主防災組織が増えている傾向であるが、評価はCとなっている。Aになる為の取組みは何を考えるか。しっかりとした取組みを作ることによって災害に強いまちになるのをお願いしたい。</p>	<p>（総務部）</p> <p>増加傾向ではありますが、目標（85%）に対しては、低い水準（68.2%）であるため、C評価としました。</p> <p>目標を達成するためには、まずは地域の自主防災組織の組織化への意識を醸成していく必要がありますので、未組織の地域への声掛け、隣接地域の設立事例の紹介、防災士の養成、出前講座の実施、地区まちづくり推進委員会と連携した働きかけなどの取組みを行い、市民の防災意識の高揚を図ってまいります。加えて、設立時・設立後の継続したフォローアップや、設立した組織の資機材整備に係る支援を行い、組織設立を加速させるよう取り組んでまいります。</p>
【地域振興部門】		
15	<p>地区まちづくりは、立ち上がりつつありますが、立ち上げありきではなく、持続可能な町づくりになるよう、支援協力をしていただきたい。</p>	<p>（地域政策部）</p> <p>地区まちづくり推進委員会の設立に当たっては、地域との話し合い等を重ね、地域の意向を尊重しながら進めています。</p> <p>また、市では、地区まちづくり推進委員会の設立支援、まちづくり計画策定支援、事業実施の支援、まちづくり総合交付金の交付など、それぞれの地域の実情に応じた人的・財政的支援を行っており、引き続き、持続可能なまちづくりが展開されるよう努めます。</p>
16	<p>人権研修会等の開催回数の増加は、例えば市役所直営の放課後児童クラブでは、職員に対する人権研修会が実施されていないと聞いたことがある。福祉施設や民間企業に拡充していくことも重要だが、同時に「足元」を固めていくことも必要ではないか。コロナ対策もあり大変だとは思いますが、目標を達成するようにしていただきたい。</p>	<p>（地域政策部）</p> <p>現在、放課後児童クラブ職員を対象とした当センター主催の人権研修は実施しておりませんが、今後、人権研修を受講できる機会の確保と手法について検討してまいります。</p>

【自治区別計画】		
17	<p>自治区別計画では、浜田自治区が核にならないといけないのに、商業支援や地域活動が周辺自治体に比べて活発でない印象を持つ。地域住民の横のつながりをもっと推進していきたい。</p>	<p>(地域政策部)</p> <p>まちづくりの推進は、浜田地域(旧自治区)も含め、各地域において、それぞれの個性を活かして計画的に実施する必要があります。</p> <p>浜田地域においては、課題である地域住民の横のつながりの希薄化を解消するため、地域内の話し合いの場づくりなど、地域活動の活発化に向けた取組を進めてまいります。</p>
【全 体】		
18	<p>コロナの影響により、交流会やイベント等の開催に制限がある為、計画の一部は確実に阻まれてはいるが、この状況においてもインフラ整備(経済・社会・交通・通信・IT化など)を強力に推進していくことは可能だと思う。進捗度が低い項目について、コロナの影響が少ないと思われる目標については、方策の見直しをしていくことが必要。</p>	<p>(事務局)</p> <p>コロナの影響が大きい交流会やイベント等についても、コロナ対策を講じた開催方法の検討や目標達成した項目を上方修正するなど、各目標で取組を進めております。</p> <p>今年度が最終年度であることから、前期計画目標値については見直しを行わず、後期基本計画策定を行う上でコロナの影響を踏まえた施策の見直しを行います。</p>
19	<p>進捗に対する意見は、コロナウイルスの影響もあり、正直特に意見はないです。</p> <p>効果のありそうな政策を引き続き行って、あまり効果のないものはやめた方がよいのではないかと思います。</p>	<p>(事務局)</p> <p>項目ごとに5年間の評価を行い、後期基本計画へ向けた考えをまとめております。</p> <p>その内容を踏まえ、後期計画へ引き継ぐもの、新たな取組を行うものを検討していきます。</p>
20	<p>目標達成された項目について、後期はどうするのか。更新した目標を設けるのか、違う項目を策定するのか。</p> <p>目標値を上方修正している項目はあるが、下方修正することはないのか。(コロナ要因など)</p>	<p>(事務局)</p> <p>目標達成した項目については、5年間の評価を参考に審議会委員からいただいたご意見、また市民委員会や各種団体のご意見を踏まえ、後期計画へ引き継ぐもの、新たな取組を行うものを検討していきます。</p> <p>下方修正については、議会の議決を受けていることから基本的に目標値を変えず、取組を行うこととしています。目標達成した項目については、更に取組を進めていくため、目標値の上方修正を行っています。</p>

【生活機能の強化に係る取組】

<p>21</p>	<p>総合振興計画と重複する部分が多いが、地域生活を支える上で必要となる施設は整備されてきたが、子育て世代、介護者等の家族を支える仕組みの創設（併設）が求められている。社会的孤独の解消が安定した地域生活の営みに繋がると考えます。</p>	<p>（健康福祉部） 子供・高齢者・障がい者など全ての人が地域で生きがいを持って共に暮らし、高め合うことができる「地域共生社会」の実現に向け、包括的・重層的な支援体制づくりに努めます。 具体的には、制度や分野の枠を超え、地域の生活課題について総合的に相談に応じ、情報の提供や助言等を行うことができる体制や、支援関係機関が連携し、課題解決に向けた支援を一体的に行える体制の整備に取り組んでまいります。 また、地域社会からの孤立を防ぐため、住民同士が出会い参加できる場や居場所の確保、日常生活の中でお互いに支え合う関係性をつくるコミュニティ活動やサークル活動への支援も検討いたします。</p>
<p>22</p>	<p>浜田市国民健康保険診療所の常勤医師数が3年間にわたり「C評価」、目標に対する欠員2名となっているが、現状の関係機関との連携や実習の受入れで確保の見込みが立たないのであれば、今後の取組内容を変える必要があるのではないかと考えます。医療体制がない（医療体制にアクセスしにくい）地域ができしてしまうと、その地域に住んでくださいとは言えなくなる。</p>	<p>（健康福祉部） 欠員2名に対し、現在は常勤医師2名、島根県からの派遣医師1名、短時間勤務医師2名の5名体制で国保診療所連合体としてグループ診療を行っています。 関係機関の連携では、本年度末をもって定年を迎える医師1名について、島根県も認識し、県立中央病院総合診療科においても、後期研修の研修先と現在調整中です。 実習の受入れについては、総合診療医の育成のため、島根県や島根大学も必要性を認識し、今年度から島根大学医学部附属病院内に総合診療医センターが新設されました。浜田市においては平成21年から、総合診療医の必要性を考え浜田市中心部地域包括ケア研修センターでの医師の育成に取り組んでいます。これまでの取り組みが評価に値するものと考えます。</p>
<p>23</p>	<p>放課後児童クラブの定員数を増やしており、少子化の中でも受入数が右上がり。保護者の需要が伺える。保護者ニーズ重視に偏ると時間延長など子どもの健全な成長を妨げると考える。利用者の子どものアンケートなどで声を取り入れているか尋ねたい。定員数増に伴いスタッフも増員しているが、スタッフ研修の有無、児童クラブごとに運営ガイドラインは一律なのか、それをする機関があるか尋ねたい。</p>	<p>（健康福祉部） 放課後児童クラブの役割は、保護者が労働等により昼間家庭にいない子どもに遊びや生活の場を提供することであり、その開設時間は、一定程度親の労働時間に左右されると考えております。一方で、子どもにとって家庭で過ごす時間は重要であると考えており、現在の時間延長はそのバランスを考えて行いました。利用する子どもの声は、各クラブにおいて活動内容に取り入れる等しております。一定程度の経験のある支援員は、放課後児童クラブ認定資格研修を積極的に受講するよう指示しております。運営ガイドラインは、国が示して</p>

		いる「放課後児童クラブ運営指針」に沿って、全クラブが運営を行っております。
【結びつきやネットワークの強化に係る取組】		
24	地域公共交通について、新たな運行計画とはどのような計画か。	<p>(地域政策部)</p> <p>浜田市生活路線バス及び予約型乗合タクシーの運行に係る計画全般(路線、便数、ダイヤ、運賃等)を指します。</p> <p>令和3年度からの運行計画については、令和2年度までの運行実績等を踏まえ、路線や便数、ダイヤ等の見直しを行いました。</p> <p>地域の状況や実態に即した運行計画となるよう概ね3年ごとに見直しを行っています。</p>
25	シングルペアレント就労人材育成事業は終了したが、現在何人の方が浜田に就労定住されているのか。これからも何らかの支援はあるのか。	<p>(地域政策部)</p> <p>令和3年7月31日現在で、10世帯25人が定着しています。なお、10人中9人が、研修先の事業所で引き続き就労をしています。</p> <p>現在、通常のU・Iターン者の受入れと同様に、相談内容に応じてひとり親支援制度をお伝えするなど、きめ細やかな対応に努めております。</p>
26	U・Iターン者数が近年になって増えているということは重視すべきで、何を求めて地方に移住したのか、そのきっかけや理由の統計を活かしたいところ。(自然、人とのふれ合いや安らぎ、自分らしさなど)住民の「生活満足度」を上げる具体的な方策を進めていく。企業誘致、雇用の促進、賃金安定など経済的に困らないことや交通、医療、教育、子育てなどの環境整備を確実にしていくことが定住化に不可欠だと思う。	<p>(地域政策部)</p> <p>過去3年にかけてIターンした方にアンケート調査を実施しました。その中で、浜田での暮らしで感じていることとして、自然が豊か、食べ物がおいしい、仕事のやりがいや通勤時間に満足、地域の繋がりが良い等の回答がありました。</p> <p>こういったアンケート結果を参考とし、今後の定住促進策に繋げていきたいと考えております。</p>
27	多くの学生に浜田で就職してもらうには、浜田に愛着を持ってもらうことが必要だと思います。そのためにも、学生と地域住民が関わる機会を多くつくるのが大切だと思います。	<p>(地域政策部)</p> <p>大学等高等教育機関と連携したまちづくり推進事業補助金の交付や島根県立大学の学生が商店街等でパフォーマンス等を行う「まちなかキャンパス」を実施し、学生と市民の交流促進に取り組んでいます。</p> <p>現在は、新型コロナウイルス感染症の影響で交流の機会が減少していますが、学生が浜田に愛着を持ち、卒業後の定住につながるよう市民との交流機会の創出に努めてまいります。</p>
28	進捗に対する意見ということで、現状効果が出ているものは続けて、効果のうすいものはやめてしまった方が良くと思います。違う分野の事は細かくは分かりませんが、実際に空き家の改修をする助成として「上限30万、2/3」というのは、空き家を	<p>(地域政策部)</p> <p>令和2年度の空き家バンク入居物件数は53件(U・Iターン者入居18件、市内転居35件)のうち、売買件数は32件(60.4%)です。</p> <p>また、売買件数32件のうち、U・Iター</p>

	<p>U・Iターナー者の誘致の材料として使うには少なすぎると思います。成果指標が「空き家バンク登録件数」ではなく、「空き家バンクでの実際の売買成立件数」でなければ、効果の確認にならないのではないかと思います。</p>	<p>ン者の入居物件数は6件でした。</p> <p>なお、40歳未満の若者又はU・Iターナー者が売買契約後に改修補助金を活用する場合は、上限50万円と、上乗せ補助を行っております。</p> <p>空き家バンク登録件数の増加することが、利用者の住まいの選択肢を広げるものと考えておりますので、後期計画におきましては、登録件数に加え、契約（賃貸、売買）成立件数も指標とすることを検討いたします。</p>
【全 体】		
29	<p>「住みたくなる浜田」、「魅力ある浜田」について、市民のニーズを把握する必要がありますのではないのでしょうか？行政の施策との乖離を感じる、行政の意図が伝わりにくい部分があるのではないのでしょうか。広報誌、ケーブルビジョン等を通して、施策について細やかに説明する場を設ける必要があると考えます。</p>	<p>（事務局）</p> <p>市民ニーズの把握については、元気な浜田づくり市民委員会を2回開催し、「こんな浜田がいいな」をテーマに市民の皆さんからご意見をいただいたところであり、この意見を後期基本計画の各部門に盛り込んでいけるよう検討を行っているところです。</p> <p>また、「現状と課題」や主要施策の作成にあたり、各部署において団体へのヒアリングを実施し、課題や要望の把握を行ったところです。</p> <p>そういった意図が伝わるような広報誌・ホームページの掲載、冊子配布、ケーブルテレビによる周知、必要に応じて説明する場を設けていくなど考えています。</p>
30	<p>仕事量は有るのに、後継者不足で廃業していくケースが後を絶ちません。</p> <p>商工業者の衰退が地域の衰退に拍車をかけるといった悪循環になっています。IターナーやUターナーの人に後継者となって頂くためのマッチングや、定着するまでの財政支援等の制度の拡充を考えていく必要があるのではないのでしょうか。</p>	<p>（産業経済部）</p> <p>ご質問のとおり、浜田市内の廃業予定企業の廃業理由として後継者不在があげられます。現在、地域おこし協力隊制度を活用して、2名の方が事業承継のマッチングに取り組んでいます。着任後2年以内に承継先を選定することとしていますので、状況に応じて支援策を検討してまいります。</p>

【産業振興と企業立地による雇用の創出】

31	<p>「企業立地優遇制度による雇用創出数」の評価がDであり、よく言われる「浜田には広い土地が無いから企業が来ない」という状況を打破できる要素はないのかと思う。企業やリモートワークなど、地方に住んでもやりがいを感じられる仕事をする事は可能だと思う。空き家や空き店舗などを利用した企業ブース、出店スペースを増やしたり、SNSやホームページなどで浜田に住むメリットや魅力を発信し続けることで若者層にアピールできるのではないか。今よりもっと「よく見える」形で発信していくべきだと思う。</p> <p>(例) メディア (CMコンテンツなど)、アンテナショップ、TV番組、情報誌、映画、アニメ、マスコット、ゆるキャラ等</p>	<p>(経済産業部)</p> <p>ご質問のとおり浜田市において、整備された団地には限りがあり、新たな用地の準備には多額の費用がかかります。</p> <p>今後は遊休地・遊休施設を積極的に活用した企業誘致を推進してまいります。</p> <p>また、今年度地域政策部において移住定住情報サイトの作成も行います。より効果的な情報発信に努めてまいります。</p>
32	<p>継続的な人口減少の中で、働き手（産業の担い手）の確保、養成について、先駆的取り組みを行っている自治体等を参考に後期計画に反映していただきたいと思えます。</p>	<p>(産業経済部)</p> <p>参考となる先進事例があれば、反映を検討します。</p>
33	<p>新規学卒地元就職者数について、SNSでの魅力発信に加えて、オンラインで地元企業について詳しく知ることができれば良いなと思いました。</p>	<p>(産業経済部)</p> <p>企業の意向を踏まえ検討します。</p>
<p>【子どもを安心して産み育てる環境づくり】</p>		
34	<p>出生数に目を奪われがちだが、生まれてきた子どもがこの浜田市で幸せな子ども時代を過ごせるかが重要と考える。親が安心して子どもを育てられる環境づくりと、地域の中で子どもを育てながら親も成長できる環境づくりが必要。今子育てしている世代が感じている声を聞く機会があるか尋ねたい。</p>	<p>(健康福祉部)</p> <p>子育てしている世代の声を聞く機会として、乳幼児健康診査時、赤ちゃん訪問時や子育て支援センター「すくすく」を利用された保護者などからあります。</p>
35	<p>出生数が2020年度で296名と、現状の目標値400名は非現実的である。不妊治療費助成や保育料軽減といった施策は大変ありがたいが、直接的な「子育て支援」だけでは結果が出ないことは明らかなので、子育て世代の雇用環境（地元企業の給与、福利厚生向上や育休取得の促進等）も含め、複合的に問題をとらえるべきではないか。</p>	<p>(健康福祉部)</p> <p>少子化対策は、子育て世代の雇用環境も含めた複合的な問題であると考えため、今年度から、従業員の出会い、結婚、出産、子育てを積極的に支援する取組を行う事業所等を「出会い・結婚・出産・子育て応援事業所」として認定し、取組により従業員に休暇を取得させた際に代替の従業員を雇った場合、その費用の一部を補助する制度を開始することとしております。</p>
36	<p>地域で生活するために必要な要素の中に医療は非常に大きな割合を占めると考えます。特に救急医療、総合診療科、小児科は不可欠だと考えています。隣接する江津市</p>	<p>(健康福祉部)</p> <p>医療の機能分担など多くの課題はあるもの、引き続き島根県や島根大学などの関係機関と連携し、浜田市の医療を守るため</p>

	を含む地域の基幹医療機関として浜田医療センターの医師の確保、機能の有効活用を一層図っていただきたいと思ひます。安心して子供を産み、育てられる街づくりとも密接に関係していると思ひます。	継続的に取り組みます。
37	少子化対策として、産後の職場復帰の考慮が必要と考えます。また、保育料の問題も課題の一つに思える。他町では無料の所もあり、義務教育中は安心して子育てができる事が考えられないでしょうか。	(健康福祉部) 年度途中での0歳児の受入体制を整備している保育所に対して補助を行うなど、職場復帰しやすい環境づくりに努めています。 また、保育料は、3歳以上児は無料、3歳未満児は国基準の6割に設定しています。 さらに、今年度から第3子以降は、保育料と給食費を無料にするなど、子育て世代の経済的負担の軽減に取り組んでいます。
38	認可保育所定員数は、定員の確保も重要だが、施設がそのための人材(保育士)を確保できないことも要因であり、人材の確保、出生数の減少も含めて目標値を設定いただきたい。	(健康福祉部) 保育士の資格を取得しようとする本市出身の学生に対し、修学資金を貸し付け、その修学を支援することにより、市内の保育士の確保に努めています。 その結果、近年は子どもの数が減少する中で、市内保育士の新規採用者数は11~12名(うち修学資金貸付者6~8名)をキープしており、人材確保には一定の成果をあげているものと考えています。
39	進捗に対しては成果のあるものは続ける、ないものはやめる、で良いと思ひます。空き家バンクの売買成立数なども知りたいです。また、婚活イベントを通して実際に結婚された数もわかると効果があったのかわかりやすいと思ひます。	(地域政策部) 令和2年度の空き家バンクの入居物件数53件のうち、売買物件数は、32件(60.4%)でした。 なお、後期計画では、登録件数に加え、契約(賃貸、売買)成立件数も指標とすることを検討いたします。 また、婚活イベントを通して成婚された件数は、2件です(進捗状況表に、記載しています)。
【総合戦略の趣旨】		
40	趣旨や基本目標にある「しごとの創生」「地方における安定した雇用を創出する」などの中にある若い世代が安心して働ける「相応の賃金、安定した雇用形態、やりがいのあるしごと」という点は、何を基準にしているのかよくわからないので、もう少し現実的なものの方が良いと思ひます。	(事務局) 総合戦略の趣旨については、国、県の戦略を基に策定することとなっていることから、国の戦略で示されたものを掲載しております。 浜田市では、国、県の総合戦略を勘案し基本目標を「産業振興と企業立地による雇用の創出」として取組みを進めております。

その他		
41	<p>継続的な相対的な人口減少、それに伴う労働人口の減少、コロナ禍による地元産業の衰退などの状況があるなかで、様々な取り組みがなされていると思います。しかし、そのことが市民の生活に直結しているのか、市民のもとに届いているのか、ということになると疑問が残ります。冊子を作成しても、読んでいただかなければ関心を持っていただけないのではないのでしょうか。まずは、浜田市が何を目的として、当期に何を行おうとしているのか、市民に理解してもらい必要があると考えます。これまではない情報発信を考えてはいかがでしょうか。</p>	<p>(地域政策部)</p> <p>現行の計画でも行っている冊子配布、ホームページへ掲載、それに加えて浜田市行政情報番組(浜っ子タイムズ)での周知を考えています。</p> <p>浜っ子タイムズは石見ケーブルテレビのチャンネルで放送されるだけでなく、アーカイブとして Youtube でいつでも見ることができます。</p> <p>今後もこれまで以上に市民の皆さんに理解していただける情報発信の方法等を検討してまいります。</p>
42	<p>狭義のことではありますが、障がい支援を支える浜田圏域自立支援協議会は、圏域として活動する形態をとっております。隣接する江津市と歩調を合わせて、横断的に施策を考え、支援の提供、質の向上を図ってはいかがでしょうか。さらに、高齢者福祉、児童福祉との協働も今後は必要となると考えます。重層的な支援を提供するためにも大きな視点が必要ではないかと考えます。そのためには、自立支援協議会の有効活用を行政としてバックアップしていただきたいと思っております。</p>	<p>(健康福祉部)</p> <p>浜田圏域自立支援協議会は、浜田市・江津市に居住する障がい者の地域生活を支援するため、両市が協力し、関係機関の連携強化や支援体制の構築に努め、また、それぞれの市が持つ医療機関や福祉サービス事業所等の社会資源を圏域で活用し適切な支援に努めているところです。また、今年度からは浜田市基幹相談支援センターを新たに開設しており、今後は2つの基幹相談支援センターと浜田市・江津市とで更なる連携を図り、既存の分野・制度の枠を超えた、横断的・重層的な支援の提供について検討する必要があると考えます。</p>
43	<p>自然現象による人口減少(少子高齢化)はどうしようもないところがありますが、若者世代を引き留める策の一つに、浜田にIターン、Uターンされている人に浜田の良い所(魅力)の情報をしっかり流すのも策ではないのでしょうか。</p>	<p>(地域政策部)</p> <p>令和3年度中に移住定住情報サイトを刷新します。</p> <p>現在、本市に移住した方への取材や座談会等を実施し、「移住者の声」として本市の魅力等を発信すべく、掲載の準備を進めております。</p> <p>このサイトを通じて、移住検討者が必要な情報を円滑に取得できるよう、努めてまいります。</p>
44	<p>企業、職場において天降りもあり、就職の道も狭いのもあるのではないのでしょうか。若い人の意見・想いを寄せる場作りも必要と思う。</p>	<p>(産業経済部)</p> <p>企業の天下りについては把握できませんが、今年度から地域政策部において、若者会議設置事業を実施しており、ご指摘の「場」になるものと考えます。</p>
45	<p>コロナ禍で集うことができないことから、保護者行事も簡素化され、悩みを相談できる深い仲間づくりができない状況が伺える。子どもを育てるお母さん達もコミュニティの場を失い、孤独の不安から特定のママ友を固執化し、子どもの遊ぶ子を親が選んでいる状況が浜田市内でもあると耳に</p>	<p>(教育部)</p> <p>浜田親子共育応援プログラム(通称HOOP!)では、家庭教育に関する講座の実施等を行うことにより、子どもに関する学習機会を提供するとともに、保護者同士の交流を深めることを目的に実施しております。</p>

	<p>する。少子化が拍車をかけ、親同士の輪もコロナ禍で急激に変化している。子どものためにと親同士の仲間に外れないよう携帯が離せない親もあると聞く。親として大人として大切なことが親学、HOOPなどの対話の中で気づき、救われる保護者が多いのではないかと思う。家庭教育支援を小学校、幼稚園、保育園の保護者活動に取り入れて欲しい。</p>	<p>また、まちづくりセンターを拠点に、地域で家庭教育を支援する体制も図られております。</p> <p>委員ご指摘の課題を解決していくには、息の長い取組が必要であり、引き続きHOOP!を実施するとともに、周知にも力を入れてまいります。</p>
46	<p>正直わからないことが多かったのですが、とても参考になりました。町おこしをするのには、どうしても若者の力が必要だと思います。自分としては、地元に残ってもらうよりは、実際に一度県外から地元をみたり、外からの受入れを強化するべきだと思います。まず、交通やネット環境の整備、田舎に来るだけの受入れ政策を強化した方が良くと思いました。コロナでわからない数値も多かったですが、市が活動している内容を知れて良かったです。</p>	<p>(地域政策部)</p> <p>ご意見をいただきありがとうございます。おっしゃるとおり、当市も若者の力が必要だと考えています。そこで浜田を良くしたいという思いを持った若者が集まる若者会議を発足しました。若者が暮らしやすいまちづくりに向けた新たな発想、施策を展開するため、話し合いをしています。</p>
47	<p>外ノ浦は日本遺産として指定を受けていますが、景観等の保全計画や利用計画はあるのでしょうか？</p> <p>それから、道路に挟まれた陸地に石造の検潮所が残っていますが、撤去するでなくしかるべき場所に移築し、活用を図る必要があると思います。</p>	<p>(都市建設部)</p> <p>外ノ浦については、浜田城跡などのような重点地区には指定されていないものの、「浜田市景観計画」において盛り込まれております。</p> <p>(教育部)</p> <p>検潮所については、日本遺産の構成文化財からは除外されていますが、その歴史的意義から、当面現在地において文化財係が調査を続けております。</p>
48	<p>意見集約の依頼が遅いので、もっと日数の余裕をもって送っていただきたい。</p>	<p>(事務局)</p> <p>短い期間で、急な依頼となってしまう大変申し訳ありません。今後は、日数に余裕をもってご案内するように努めてまいります。</p>